

園 名

品川区立台場幼稚園

テーマ

探究心の芽生えを育む園庭自然環境の充実と協同的な活動の工夫
【がんばり発表会～自分を発揮して仲間と協同する～】

テーマ設定の理由

園生活で最後にどんなことがやりたいかを子どもたちと考えた。
子どもの持っている良さや育っていること、さらに伸ばしたい面から12月に行った生活発表会をパワーアップさせた発表会をすることになった。グループごとにやりたいことで自分を発揮したり、仲間と協同したりする楽しさや達成感を味わってほしいと考えた。

活動スケジュール

1月中旬～ 導入
やりたいことからグループ決定
1月4週～2月1週 グループごとに発表内容決定
決めたことをやってみる
2月2週～ 自分たちで決めたことに取り組む中で
仲間と一緒にやり遂げていく
2月3週 リハーサル、発表会(保護者参観)

活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- 話し合いのためのホワイトボードやマグネット、時計
- 各グループの発表のための道具
 - ・なわとび
 - ・楽器
 - ・劇の大道具・小道具・衣装づくりの材料
 - ・こま、それぞれのグループの音楽など



活動の内容

年間行事予定において、2月中旬に「協同的体験」を位置づけている



もう少しで幼稚園が終わるので、
園生活で自分の好きなこと・得意なこと・がんばったことなど
みんなで最後に楽しいことがしたい！

修了間近に一人ひとりが十分に自分の力を発揮して、
自信をもって就学してほしい！
仲間と共同して取り組む楽しさや大切さを感じてほしい！



学級で話し合いをして12月の生活発表会が楽しかったから、パワーアップした発表会をしたい！ということになった。

表現することが好き！楽しい！



なわとび、がんばっているんだ！
こまにも挑戦しているよ！



みんなは、どんなことを発表したいのかな？
(学級のもんで話し合う)

なわとびグループ

劇グループ

こま&ダンスグループ

合奏グループ



4グループに決まった。やりたいことを自分で選んで、グループのメンバーを決めた。



発表会の名前は、どんな名前がいいかな…？
(学級のもんで話し合う)

『かもめがんばりはっぴょうかい』！
12月の生活発表会とは違い、自分たちのがんばっていること
を見てもらいたいと、学級のもんで決める



取組みの経過

発表会に向けて自分たちで活動内容を決めたり、その日のスケジュールを考えたりする話し合いを、1グループ4～6名程度で活動の前にしてきた。
目的をもって自分たちで話し合いを重ねることで意見の違いでぶつかったり、うまくいかないこともあったが、それぞれのやりたいことで集まっているメンバー
なので、折り合いをつけながらグループの関係性をつくっていった。
発表内容をより良くしたり、見てもらうための工夫をしたりなど、実際に練習をしながら4歳児クラスに見てもらう機会と保護者が参観にくる本番に向けて、幼
児が主体性を発揮しながら活動を進めた。

保護者参観 当日(本番)



準備も進行も自分たちで、できるね！
(大人の指示や手伝いは極力出さずに、見守る姿勢)

道具や楽器の準備なども自分たちでできるよ！
(問題が起こっても、自分たちで何とかしようと
力を合わせてがんばっていた。)



活動中の子供たちの姿・声、子供同士や子供と保育者との関わり

なわとびグループのある1日

「時間になっても A ちゃん来ない。」というグループのメンバーが困っていた。「やりたくない。あそびたい。」と言っているという。
始まりの時間も一緒に確認したということだった。

4 人の気持ちどう思う？わからない？悲しい気持ちだよ

昨日約束した。絶対やるって言ってたのにな…

遊びたいのは分かった。今遊びたい気持ちなのね。
みんなと約束して、みんなが困っているのは分かる？

昨日も今日もやらなくて、縄跳びできないよ。A ちゃんも一緒に楽しくやりたい。一緒にやってくれる？

遊びたいんだって…

うなづく
(言葉は出ない)

それはわかってるんだね！

みんなでやろうって言ったのに、ハナコ(カメ)のお世話が終わったらやろうって言ってたのに、何も言わないで行っちゃった。

昨日と今日の集まったときはやろうと思ってたんだね。その後に遊びたくなっちゃったんだね。それはあることだし分かるけど、気持ちが変わったことを伝えられたらよかったね。A ちゃんは縄跳びの発表したいと思って選んだんだと思うけど、今も縄跳びしたいと思ってる？

(黙っている…)

ぼくは一日中なわとびしたいくらい。

いろんなタイプの人がいるから、B くんみたいに 1 日中したい人もいるし、A ちゃんみたいに気持ちが変わっちゃったりすることがある人もいるよね。どうしたらいいだろうね。

ちょっとなら、いいよ…

ちょっとって、本番のプログラムはたくさんあるんだよ。発表会やりたいの？

普通…
どっちでもいい

それが一番困るね。「どっちでもいい」ってそれは自分で考えてないってことだよ。誰かと一緒にやるためにはまずは自分の考えがないとできないよ。A ちゃんがやらないっていうのは、だめなんじゃなくて、みんなが困っているんだよね。でも、A ちゃん少しならいいって気持ちが少し変わってきたよね。

その後…

5 人で園庭に出ていく。A は一度目はうまく入れなかったり、引っかかったりしたが、タイミングを合わせるとできるようになり、少しずつ入るタイミングをつかみできるようになっていく。そこで自信がついたのか、順番でないときには曲に合わせて踊ったり、メンバーとふざけあったりして表情もよくなっていった。

結局時間いっぱい大縄をして最後に先生に見てもらって 5 人それぞれが大縄で一人ずつ曲に合わせて跳ぶことができ、大きな拍手をもらい大喜びだった。

話し合いが終わった直後には、その時の様子から A が本当に縄跳びをやりたいと思っているのか心配になったが、その後の縄跳びの練習を見るとやりたくないわけじゃなく、自信がなくて一歩踏み出せなかったということが大きいのではないかと、教師は振り返って思い直し、言葉に出せない思いを受け止めたいと思った。



活動の様子



サークルになり、グループごとの
ホワイトボードで話し合う



ときには意見がぶつかりあうことも
自分の思いを伝えて
相手の思いも聞き合う



縄跳びの演目を考えたり
練習も自分たちで進める



発表のための言葉を考えて
自分たちで進めようとする



振り返りによって得た保育者の気づき

子どもの取組みの様子に応じた
指導の改善と工夫

- 子どもたちがグループの中で、自分たちで話し合い、活動を進めていけるように話し合いの手掛かりとなる視覚物の表示をグループごとに用意し、互いの思いや考えを確認しながら進められるようにした
- 用意した視覚物が子どもたちの実態に合っているのかを見とりながら調整していった。例えば、活動の時間を決めるために針を動かして時間わかる時計を用意したが、開始時間を決めることや、その時計を使って話し合うことは難しいと分かり、「はじめにやる」「とちゅうでやる」「さいごにやる」のマグネットに変更して、新たな視覚物を用意した。
- グループのみんなで協力しないとできない演目を提示して、それを仲間と一緒に取り組む中でおもしろさや成功するうれしさを共有して、みんなでやってみようという気持ちが芽生えていった。(例:こま&ダンスグループの「こまりレー」は一人が回したこまをクリアファイルの上にのせてまわしていくリレーで、みんなでできたを感じやすいようだった。)
- 演目によっては、成功する・失敗するが分かりやすいものがあり、そこにこだわる幼児がグループで協力してやるということの良さを理解することが難しく、失敗した人に強く当たってしまうことがあった。

“どうすると自分たちの発表が良くなるか”…子どもたち自身が探究を進めていく際には、必要に応じて実態に合った演目の提示や、自分たちがしていることを可視化したものなど、必要な環境や保育者の援助が必要な場面がある。そこを見極めるためにも、子ども理解が何よりも重要で、そこから適切な指導や手立てが見つけられるということを改めて実感した。

園 名

品川区立台場幼稚園

テーマ

探究心の芽生えを育む園庭自然環境の充実と協同的な活動の工夫
【氷できるかな？～考えて・試して・発見～】

テーマ設定の理由

冬になると園庭にある人工の川が凍ることがある。どのくらい寒いと凍るのか。どんな条件だと凍るのか。自分たちの氷を作ることは、容器、置き場所、水の量、その日の気温、いろんな要素がある。子どもたちが自分たちで考え、たくさん試して、失敗して、次の気づきにつながる学びになる。

活動スケジュール

1月

- 1、天気予報で寒い日をチェック
氷づくりができる様々な容器を用意しておく
- 2、寒波到来予報の前日に氷の話をする(導入)
子どもが容器や置き場所を自分で選び設置
- 3、翌日の朝、凍っているのかチェック、全体共有
- 4、気づきをもとに、つぎの氷づくりへ

活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- 氷や冬の自然絵本
- 氷づくりの容器(プラスチック、金属、様々な大きさのもの、卵パックなどの空き容器)
- 自分の容器がわかる名札
- 園庭マップ(凍った場所がわかるように)
- 写真やドキュメンテーション掲示



活動の内容

1月中旬… 大寒波到来の影響により、寒い日が続いている。子どもたちは好きな遊びや当番の活動など、日頃の園生活の中で寒さを体感しながら過ごしている。昨年度、園庭の池が凍ったことを覚えている様子。保育者は、気象予報で氷点下予測をチェックしながら、氷に触れる機会ができないかをタイミングを計っていた

降園前のひととき、季節の絵本を学級のみinnで楽しむ。その中で、氷の写真が出てくる。そこでみんなで「氷づくり」をやってみよう!という話になる

氷づくり用の容器として、プラスチックや金属、コップ、ボール、お皿、バケツやバットなど様々なものを用意しておく、
子どもたちは、園庭の様々なところに容器に入れた水をセットして帰る
「池が凍ったことがあるから、池の周りに置けば凍るかも!」と自分なりに予測を立てて、設置する姿が見られる

次の日、登園した幼児から、自分の氷を確認しに行くことができるようにする。氷ができたかが楽しみで、急いで身支度や所持品の始末を済ませ園庭を見に行く子たちが多くいた。保護者からも「ずっと楽しみにしている様子でした」と伝えられる

場所によって、またいろいろな容器によって、また容器によっても部分的な違いがあるなど
凍る人、凍らない人と様々だったことから、氷を確認した後に学級のみinnで集まり、共有する時間をとった

詳細を次ページに!

子どものつぶやきや考えから、容器の素材の違いや、水が風に当たる大きさ(面積)、日向日陰など、凍るための条件などが挙げられ
自分の考えを表現する楽しさを十分に味わえるように、様々な考えを出し合う時間をつくった

1回目で凍らなかった人はみんなで考えた凍る条件を参考にして容器や置き場所を考えたりして、
次にチャレンジをしたり、個数を増やしたりしている姿があった

前回、容器について考えたので次は園庭マップをつくり、凍った場所、凍らなかった場所をシールで印をつけて、みんなで共有できるようにした。

活動中の子供たちの姿・声、子供同士や子供と保育者との関わり

自分の氷の様子を確認した後、保育室に戻り、学級のみinnで共有する時間をつくる



凍った人？(手をあげる) 凍らなかった人？(3人ぐらい手をあげる)
どうして凍った人と凍らなかった人がいるんだろうね。

たまごパックの蓋をしたからじゃない？



そこで卵パックで作った幼児に聞いてみる。F、M、H。Mは蓋をして凍らなかった。Fは10個中2個凍らなかった。Hは6個入り全部凍った。

Fのは、なんで凍ったところと凍らなかったところがあるんだろうね。

冷たい風が当たるところとあたらないところじゃない？



たしかに、Fは卵パック二つ置いたんだけど、研究所(容器や道具置き場)
の下は凍らなかったんだよね。そこは風が当たらなかったのか。
あと凍らなかった人は？どんな入れ物だった？

はい！
透明のコップ



透明のプラスチックの
コップだよね。



風の当たる幅がせまい？

卵パックははさみで切れるけど、
コップは切れない…

卵パックもプラスチックだよ！

プラスチックのかたさ？

子どもたちから
様々につぶやきや言葉
が飛び交う…

コップは硬くて、小さい…



あともう一つ聞きたいんだけど、銀色のボールでできてない人いる？
これもみんな凍ったんだね。これは何でできてるんだろう。

たしかに、私たちも薄い服を着ているとさむくて、厚い服は暖かいね。
厚いプラスチックはあったかいってことかな。



金属？ 鉄？ ジュースの缶みたいな…

アルミなのかな？ジュースが入っている缶あるよね、それと一緒にかな？
なんだかこのボウルを持っていると冷たいんだよね



わかった！冷たくなりやすいんじゃない？

だからジュースはアルミ缶に入ってるのかな？
冷たくなりやすいんだね。





活動の様子

様々な容器を用意して
子どもたちが選べるように



園庭マップにシールで印をつけて凍った場所を共有



「ちょっと触らせて～」
凍らなかった人も氷に触らせてもらう



葉っぱを入れたら
きれいな葉っぱ入り氷に



振り返りによって得た保育者の気づき

様々な素材、形、大きさの容器を用意したので、思った以上に子どもたちが様々なことを考えながら試している姿を見ることができた。子どもたちが気付いたことや不思議に思っていることなどをクラスのみんなで共有しながら一緒に考えることで、大人が教えるのではなく、自分たちの身近なものから仮説を立てたり、考えたりすることができた。例えば、卵パックははさみで切れるけど、プラスチックのコップは切れない。だからプラスチックの丈夫さが違う。私たちも薄い服は寒くて、厚い服を着ると暖かい、など、いろいろな友達の考えを持ち寄って気が付いていた。

1回目に凍らなかった人も、みんなで考えた時間から次はこの容器でここに置いてみたらどうかと試して、2回目に厚い氷をつくって喜んでた。次はこうしてみようとして、考えて、実行するが興味関心の中で継続してできる面白さがあった。また、この活動は5歳児クラスでしていたが、園庭に置いてある容器を見て、4歳児クラスの子もやってみたいと試していると、5歳児クラスの子がその様子に気が付いて、どんな場所でどんな入れ物がいいのかをアドバイスしていた。園庭で環境を共有していることで、クラス内だけでなく自分たちの学びを人に伝えたり、共有したりすることにもつながっていた。